

道徳のかけ橋

平成26年8月29日発行
第 2 号
福 島 県 教 育 庁 課
義 務 教 育

道徳の時間は、何をする時間なのか

学校教育全体で行う道徳教育の「要」となるのが道徳の時間です。それでは、道徳の時間は何をする時間なのでしょうか。「道徳のかけ橋」第2号では、「小学校（中学校）学習指導要領解説道徳編」を参考に先生方と一緒に考えていきたいと思えます。

道徳の時間については、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、（中学校：道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深め）道徳的実践力を育成する」と明記されています。子どもたちが自分自身の生き方をじっくり考える時間といえるのです。

ここで、「道徳的価値の自覚」について、詳しく考えていきましょう。

道徳的価値の自覚を深めるためには、次の3つのポイントに留意して、子ども自らが主体的に学習を進めていくように授業を展開していくことが大切です。

〈ポイント1〉道徳的価値について理解する。

道徳的価値の理解は、次の3つの理解を通して行います。授業では「①価値理解」を重視しますが、人間の弱さを含めた「②人間理解」、人間の多様性を考えさせる「③他者理解」を深めていくことが大切です。



〈ポイント2〉自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる。

ねらいとする道徳的価値にかかわる事象に対する感じ方、考え方などを単に資料中の問題としてとらえるのではなく、子ども自身が自分とのかかわりで考えられるようにします。自己理解を深めさせていくことが大切です。

〈ポイント3〉道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う。

ねらいとする道徳的価値にかかわる現在の自分自身の行為、感じ方、考え方を振り返ることで、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培います。

教師は、これらのポイントをもとに、子どもたちの姿を、自己の生き方について考えを深めているかという視点で見取りながら、授業を展開していくことが大切です。

授業を構想する手順

- ①ねらいを検討する → 年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認し、指導内容や教師の指導の意図を明らかにします。ねらいは学習指導要領に基づいて検討します。
- ②指導の要点を明確にする → ねらいに関する子どもたちの実態、各教科・領域等における指導との関連も考慮し、指導の要点を明確にします。
- ③資料を吟味する → 読み物資料を使う場合は、登場人物の行為や心の動きを中心に資料を分析し、資料の活用の仕方、取り扱う場面、中心となる発問などを検討します。
- ④指導過程を構想する → 資料について、子どもたちがどのように感じたり考えたりするのかを予想し、中心となる発問を検討し、それをもとに展開の段階を考えます。その後で、展開のための導入、終末を考えていきます。
- ⑤板書計画を立てる → ねらいにかかわって、指導の意図や資料の内容、子どもたちの感じ方が視覚的に分かりやすい板書になるよう指導過程と関連をもたせて計画を立てます。
- ⑥事前・事後指導を考える → 日常的な指導、各教科等との関連をはじめ事前の実態把握や事後の個別的な指導、家庭や地域社会との連携も含めて検討します。

一般的な学習指導過程

「学習指導要領解説道徳編」には、一般的な学習指導過程が示されています。(小学校P84・中学校P88) その中に、「いたずらに固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切である」とあり、授業者の創意工夫を期待しています。道徳の授業はこれまで様々な研究が行われ、多様な展開が試みられています。授業者が本時のねらいを明確に押さえ、子どもの問題意識や学びの意識の流れを大切にしたい指導過程を工夫していくことが大切です。

	段階の位置づけ	具体的な学習例等
導入	○ 主題に対する子どもたちの興味や関心を高め、ねらいとする道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいにかかわる生活経験の話合い ○教師からの資料内容に関連した説明 ○道徳的価値に意識が向くような教師の説話 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">短時間での確に主題に向かわせるように工夫する。</div>
展開	○ 主題のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、子ども一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の自覚を深める段階	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいとする道徳的価値にかかわる問題についての話合い ○役割演技など劇的な表現活動に基づく話合い ○自分自身の生活経験などを想起した話合い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">重要となるのは発問である。子どもの発言や心の動きを予想し、ねらいとなる価値の理解を図ることができる発問か、自分の経験に基づきながら自分事として考えられる発問かなどの視点から発問を吟味する。発問の精選が必要である。</div>
終末	○ 道徳的価値に対する思いや考えを、子どもが自分なりにまとめたり温めたりして、今後の発展につなげる段階	<ul style="list-style-type: none"> ○教師によるねらいとする道徳的価値にかかわる子どもの頃の体験談の説話 ○板書などを利用した、本時の学習の整理 ○補助資料(名言、金言、詩など)を用いた実践への動機付け <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">決意表明を迫るようなまとめは避け、学習したことを確かめたり、さらに深く心に留めたり、実践に向けての思いや課題について考えたりさせる。</div>

